

緑の風便り



笹壁弘嗣

新庄徳洲会病院院長

寒冷地ならではの驚き

当院が立地する山形県新庄市は全国有数の豪雪地帯で、冬は除雪をしなければ1日が始まりません。京都市育ちの私は、ここに来て初めて雪が途方もなく硬く重いものだと知りました。駐車場の除雪作業は未明から始まり、日勤者が帰る夕方まで除雪をしないと車が出せないことも。道路には数メートルのそそり立つ雪の壁が、駐車場の周りにも雪山ができます。そのぶん春の訪れは感動的で、緑の草が芽吹き、色とりどりの花がいつせいに咲き乱れ、梅と桜も一緒に花開きます。

当院に着任して10年目になりますが、いまだに方言には苦労し、通訳がいることが珍しくありません。近隣では語尾が「じゅ」であったり、「ズ」であったり、「にゃ〜」であったり。日本で一番短い会話は、「け」、



真っ白な雪に包まれる新庄病院

「く」です。「け」は「食べ」、「く」は「食う」、つまり「食べませんか」、「はい、食べます」という意味。寒冷地では、口を大きく開けずにしゃべるのが原則なのです。